

## PFAS汚染の原因究明・立入調査・排出停止を求める市民集会・決議文:

6月29日、米海軍は横須賀基地の排水処理場から、環境省の暫定目標値を上回る有害なPFOS等の有機フッ素化合物が検出されたと日本政府に通報。横須賀基地のPFAS汚染が明らかになった。米軍の5回目(9.29)の調査では、暫定目標値の258倍と、これまでで最も高い濃度が検出された。汚染の拡大に、市民の不安は増すばかりだ。しかし、最初の検出から半年以上が経過しているのに、米海軍は、原因究明の手掛かりさえ示していない。

12月16日、日本政府、横須賀市による米海軍横須賀基地への立入調査が行われた。横須賀市による立入調査を求めている私たちは、米軍基地への立ち入り調査が実現したことを大いに評価したい。ただ、排水処理施設の排水口からの排水の採取はできず、その周辺の海水のみの採取に止まり、リフトステーションの溜り水、汚泥のサンプリング、土壌のサンプリング等はできなかった点で、極めて不十分な内容の調査だったことは、指摘せざるを得ない。汚染の原因や実態も明らかにできず、基地管理権にメスを入れることのできない大変残念な内容であった。

11月18日の米海軍のサンプリングによる結果も、その数値を明らかにせずに、国の基準をクリアしているというのにも、にわかに信じがたい。またその前後の10月28日と11月2日の米海軍のサンプリングによる結果が検査の不備によって発表できないというのにも、今までになかった事態であり、疑念と不安は深まるばかりである。

今日12月18日、米軍基地PFAS汚染に関する横須賀市への要請を行ってきた17団体は、PFAS汚染の原因究明・立入調査・排出停止を求める市民集会を開催し、横須賀基地のPFAS汚染の現状を話合った。集会参加者一同は、一刻も早い問題解決のために、以下の項目の実施を、米海軍、日本政府、横須賀市に求めることを決議する。

- ①より包括的な、原因究明のための、市・県・国による立入調査、サンプリングの実施
  - ②立ち入り調査は、排水処理場関連に限らず、吾妻島倉庫地区等、PFAS消火剤の貯蔵・使用の可能性のある場所を含む
  - ③米海軍による、PFAS消火剤貯蔵・使用実績マップの公開
  - ④米海軍による調査報告書の一日も早い公開
  - ⑤米海軍が、原因究明のために、現在実施している作業の公開
  - ⑥排水処理施設出入口でのサンプリング調査を毎日行うこと
  - ⑦排水を一時的にタンクに貯蔵し、粒状活性炭のフィルターを何回も濾過させ、国の基準値を下回っていることの国・県・市による確認がなされるまでは、排水をしないこと
- 以上

2022.12.18

市民集会参加者一同